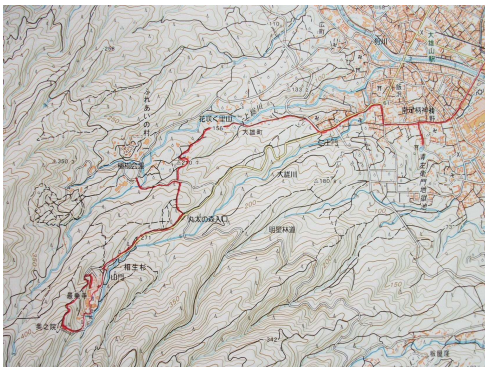
第１８回　あの森を訪ねて

大雄山最乗寺の森と周辺地



第１８回「あの森を訪ねて」は、南足柄市の「大雄山最乗寺」などを訪ねることにした。

小田急線新松田駅からの便もあるが、今回は小田原駅から大雄山線に乗って行く。

美林５０選地でもある。

コースは、小田原駅―大雄山駅＝バス＝道了尊バス停～境内～てんぐのこみち～第６１回全国植樹祭会場～花咲く里山コース～南足柄神社～清左衛門地獄池～大雄山線富士フイルム前駅　とした。

６．５ｋｍ位の距離。

大雄山鉄道

伊豆箱根鉄道大雄山線という。

大雄山最乗寺を参詣するための鉄道として、開設された。

国府津駅から小田原駅間が、国鉄により大正９年（１９２０）に延伸された。これとほどなくして、この線も大正１２年（１９２３）に着工し、大正１４年（１９２５）に完成。運行会社の筆頭株主は「大雄山最乗寺」だった。

富士フイルムは、年が変わって、昭和９年（１９３４）に足柄工場が開設した。今では、通勤・通学などで約８００万の人々に利用されているとのこと。

坂本宿

足柄峠の坂下にあった「坂下宿」は、関本付近に比定されている。

足柄峠への道は、平安時代以前の「官道」であった。

当時の万葉集には、足柄峠は神の住むところの「御坂」と呼ばれて、難所として恐れられていた。

それから２５０年後の「更級日記」でも、その恐ろしげなることが記載されている。

その後、関本宿は、矢倉沢往還や甲州街道を行き来する旅人の宿泊所として賑わった。

富士登山などにも大いに利用された。途中からは、大雄山最乗寺への道がわかれている。

坂の途中から関本の市街地を望む

大雄山最乗寺

駅を出たバスは、狩川に架かる大雄橋を渡ると上り坂となる。

宿坊もある。お土産屋が軒を連ねていた通りを過ぎて「仁王門」に至る。バスは、本当の参道へ入ったようだ。周りが全てスギの林となった。車道と並行して、約２ｋｍの「てんぐのこみち」が、最乗寺の三門まで続く。

残念ながら、この時期ではアジサイはほんの少しだけ。

下方の南足柄神社辺りから、参詣人のための道標があり、１町（１０６ｍ）毎に設置されている。

途中には、２軒の茶屋と土産の店もある。

かつての、昔からの参詣の道が今も残っている。

そして、至る所に杉苗や、寄進のしるしを示した碑が建っている。明治末から大正初め頃のものが多いようだ。

最乗寺の縁起

６３０年前の応永元年（１３９４）年、了庵慧明禅師によって開山された、曹洞宗の修行専門道場。

了庵慧明禅師は、各地での修行の後に郷里相模に帰ってきた。

言い伝えによれば、ある時、袈裟を干していると、一羽の鷲が飛来し飛び去った。足柄の山中で袈裟をみつけて、ここは、禅林として相応しい所と断じて、大雄山最乗寺を建立した。

創建に当たり、道了菩薩が了庵慧明の基に参じ、土木の業等に従事した。了庵慧明の御遷化したのち、道了は、「以後山中にあって大雄山を守り、多くの人々を利済する」といって山中に身を隠した。

大雄山のスギ林

バスが終点になると杉の巨木が見えてくる。そのすごさは、圧倒的な迫力で迫ってくる。

そこかしこに杉の巨木が林立している。境内スギ林は１３０町歩およそ１万７千本、その中で巨樹は３５０～５００年に及ぶ大きさとも。１９５３年に県の天然記念物に指定された森林は２６ｈａ。

以前の調査では、全国的にも有数の蓄積と言われた。

この杉林は、宝徳３年（１４５１）に最乗寺５世春屋宗能が、山中の草木を伐採することを堅く禁じた掟書を出したことに始まる。

乱伐を戒め、境内の環境保護に務めることで、継承されてきた。

大雄山の魅力は、老杉巨木の立ち上る自然景観や堂宇の全てが歴史であると教えてくれる。巨大な杉が２本で対になった「和合の杉」が多いのに気がつく。

ウラジロガシやシラカシ、アオキなどの紅葉樹も交え自然に近い林分構成になっている。

山中には夫婦スギが多くみられる

瑠璃門を潜り、本堂の中を参拝し、御供橋を渡る。道了菩薩を祀る御真殿の側には、数多くの高下駄が奉納されている。

そこから、奥の院を目指して、３５４段の階段を、「新型コロナウイルス」に気を付けて、フーフー言いながら登る。

奥の院の近辺も至る所に巨木が立ち並び、小さな杉の木との立派な複層林の形状を示している。

時の流れの偉大さと、それを支えた人々の営みが、この景観を生み出している。

杉の巨木の中を縫うように歩く

道了尊のバス停から「てんぐのこみち」を下る。しばらく行くと、右手に「丸太の森」の看板。反対側は、明星林道約５０００ｍの入口となっている。

第６１回全国植樹祭会場へ

ここから山道に入り、林道へ出て、２０分で植樹祭の会場へ。

第６１回全国植樹祭（平成２２年５月２３日）の植栽現場。

今回は２ヶ所に分かれ、丸太の森地区は植樹会場で、もう一か所は秦野の戸川公園で行われて、開催された。当日は、雨だったのを覚えている。天皇陛下はケヤキ、クヌギ、無花粉スギ、皇后陛下はヤマザクラ、イロハモミジ、シラカシ。８年経っているが、無花粉スギやその他の木々も、背を高く伸ばしている。

大きく育ったお手植え木

花咲く里山コース

植樹祭会場を出て、上総川の橋に行く、通行禁止とある。地元の人に聞くと「ここは３年前から通行禁止になった」とのこと。

仕方なく、林道を引き返し、途中丹沢の山並みを見ながら、林道からの下りのコースに入る。

「花咲く里山コース」である。鹿柵のある道と反対側には大雄山の杉山が、しばらく続く。

南足柄市の里山らしい風景が、上総川沿いに広がっている。

茅葺きの農家や早苗の育つ水田。そして笊菊の苗木が見える。

点在する笊菊の畑

清左衛門地獄池

「仁王門」に出る。しばらく街中を歩き、南足柄神社の横を右手に曲り、清左衛門地獄池に着く。

明神ヶ岳を水源として、１日に１．３万トンの地下水が湧出している。全国の名水１００選にも選ばれている。富士フイルムの第２水源地となっている。明神ヶ岳は、２３万年前に活動していた成層火山。礫層の間を流れる水が湧水となって、至る所に出ている。

縄文時代の遺跡などからも、昔から水が豊富であったようだ。

池の中には、厳島神社が祀られており、神社の両脇からの水は、豊かで清く澄んでいる。

清く澄んだ清左衛門地獄池

６月の季節、明神ヶ岳山頂に霞みがかかり梅雨の模様となった。

小田原駅では雨となった。

（２０２０．６　瀧澤）